

国立循環器病研究センター病院倫理委員会(第13回)議事要旨

日時 平成30年 3月29日(木) 17:30~18:05

場所 研究所新館2階 特別会議室

委員 小林委員長、細田委員、高橋委員、吉松委員代理(岩永医長)、市川委員(委員長代理)、尾谷委員、高田委員、松川委員、永井委員、松井委員、服部委員、塩谷委員、田邊委員、上菌委員(14名)

(欠席 長松委員)

(オブザーバー 宍戸部長 欠席)

事務局 會澤(書記)、松本、福本

議題

1. 申請(高難度新規医療技術)「(カテーテル検査/治療時の)経皮的経肝的肝静脈穿刺手技」
(申請者より申請取下げの申し出があった)

2. 申請(適応外医療機器)「Amplatzer Vascular Plug IIを用いた左心室仮性瘤閉鎖術」

申請者:新規医療評価室(副院長・心臓血管外科部門長 小林順二郎、心臓外科医師 久米悠太、島原佑介)

審議事項:適応外治療

審議結果:条件付

条件や具体的助言、理由:患者に示した図等、説明内容の詳細が分かる資料を提出すること。

申請概要:心尖部アプローチによる大動脈弁置換術(TAVI)後の遠隔期に左心室仮性瘤を生じた80歳代患者に対して本デバイスを用いた経カテーテル的閉鎖術を行いたい。開胸手術はリスクが高い。本治療は海外で報告が散見され、当院でも2015年に1例施行した。デバイス使用や類似治療の経験も多数あり、ハートチームでも治療方針を確認済。費用は全額患者自費とする。患者も本治療を希望している。

進行:市川委員長代理(小林委員長が申請者のため)

3. 臨床倫理研修等報告

3-1) 2017年度臨床倫理研修報告「脳卒中患者としてお伝えしたいこと」

- 参加者133名。アンケート結果は好評であった。多くの感想からも、よりよい患者説明・対応を考えるという目標を達成できたと思われる。

3-2) 関連学会等報告

①日本臨床倫理学会第6回年次大会(3月17、18日)

- 参加:高田委員、事務局會澤。倫理コンサルテーション「人工心臓事例について」等。

②病院倫理委員会コンサルタント連絡会議第4回ミーティング(1月21日)

- 参加:事務局會澤。東北大学病院医療倫理委員会・倫理コンサルテーション報告等。

③臨床倫理セミナー オランダに学ぶII(3月20日)

- 参加:事務局會澤。事例検討法 Moral Case Deliberation の紹介。

3-3) 「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」改訂

- ・ 地域包括ケアへの対応や ACP (アドバンス・ケア・プランニング) の普及を踏まえ、在宅医療・介護現場でも活用できるようにされ、また ACP の話し合いを重ね、代行判断者を事前に定めることや、その都度文書にまとめて共有することが記載された。
- ・ なお、平成 30 年度診療報酬改定でも末期心不全の緩和ケア診療加算が認められた。

4. その他

- ・ 年度末で 2 年間の委員任期満了に伴い、人事異動となる小林委員長に代わり安田副院長、尾谷委員に代わり後任理学療法士長、上菌委員に代わり後任医療安全管理看護師長が委嘱され、その他の委員は継続して委嘱される予定。

以上